

同志社大学通信

ONE PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION



創立125周年記念特集 第2弾 / 写真で綴る同大生の生活史

同志社人訪問 / 田島 年浩さん
電子ペット開発者を訪ねて

No.124

2000 OCTOBER

DOSHISHA UNIVERSITY

2000

NO.
124

OCTOBER



COVER STORY

[表紙の情景]



同志社大学会館のホールは完成して35年になるが、映画上演やコンサート会場として今も現役で活躍している。当然、設備はふた世代古く、照明や音響スタッフにかかる負担は他の比ではない。そのスタッフとして活躍しているのが学生のアルバイト集団「ホールアート」だ。毎年60人近くが新たに登録するが、実働部隊として残るのはそのうち25人くらい。熟練が必要のため、照明技術、音響技術は代々、先輩から後輩へ受け継がれている。音響プランナー長谷芳樹さん(工学部電子工学科4年次生)は、「高校時代から学園祭のステージは自分たちでやっており、その延長でホールアートを続けています」と、京田辺から駆けつけている。一方、照明プランナーの樋口大介さん(文学部文化学科美学及芸術学専攻3年次生)は、「月平均7～8回はホールに詰めています。自分たちの照明でステージが盛り上がったときは、最高です」と普通のアルバイトでは味わえない魅力について語ってくれた。

C O N T E N T S



創立125周年記念特集 第二弾

特集

写真で綴る
同大生の生活史 2

キャンパスニュース 1 9



同志社人訪問 田島 年浩さん

電子ペット開発者を訪ねて

11

伝統の技との出会い「祇園の結髪師」 14

1999年度大学決算について 15

ゼミ・ゼミ おじゃまします 商学部：岩下 正弘ゼミ
“全員責任制度”のもとで研究論文作成のノウハウを学ぶ 17

キャンパスニュース 2 20

ONE PURPOSE コメンタリー 23

私と「仕事」 25



〔明治20年〕D.C.グリーンの棉国に際し、全学生・教職員が勢揃いして送別の記念写真を撮る。キャンパスが今より広々として見えるのが興味深い。

写真で綴る 同大生の生活史



明治八（一八七五）年、今出川校地に「同志社英学校」を開校して以来、百二十五年の歳月が流れました。新島襄をはじめとする関係者の開校に至るまでの艱難^{かんなん}辛苦。さらに明治四十五（一九一三）年、正式に大学として開学するまでの関係者の努力を得て、同志社は学舎としての体裁を整えてきました。

今回の特集では、現存する卒業アルバムを手掛かりに、明治末期から昭和四十年代の同大生の生活風景を追いかけてみました。写真が特別なものであった明治期に対し、大正、昭和と時代を経るにしたがい、当時の学生の生活感を垣間見られるものが増えています。また、その一方で戦争という暗雲が学生生活にもたれこめていく様も知ることができます。今出川校地という、今日と同じ舞台で勉学に励み、青春期の葛藤に生きていた先輩たちの生活の断片をシグソーパーズルのように組み合わせていくと、同大生の原型が見えてくるかもしれません。

大正～
昭和0年

英学校から大学へ

創立者新島襄の念願がかない、明治四十五年晴れて、同志社大学となる。大正期から昭和初期にかけては、授業の風景を捉えた写真が多く残り、少人数で静謐な雰囲気の中で授業が行われていた様子が見られる。



1



2



3

- 一八七五(明治八年)十一月二十九日同志社英学校を開校。教員は新島襄とJ・D・テイウス。生徒は八名であった。
- 一八九(明治二十三年)二月二十三日新島襄永眠(四十七歳)。二月二十七日チヤル前で葬儀を営み、東山若子山頂に葬る。墓碑銘は勝海舟筆。
- 一八九三(明治二十六年)十月同志社憲章(校章)を制定する。
- 一九一(明治四十五年)四月専門学校令により同志社大学が誕生する。
- 一九二(大正九年)四月

大学令により同志社大学を開校する。文学部、神学、英文学科、一九二七年に哲学科を増設し、法学部、政治学科、経済学科、一九三三年に法律学科を増設し、大学院および予科を設ける。



4

[昭和3年]D.W.ラーネットの授業風景。中リヤ語講読の授業と思われるが学生たちもきちっと学生服に身を包み、居ずまいを正して受講する。

[昭和3年]購買部の喫茶室。学生たちは、ここで暖をとり、湯きをいやしたのだろう。

[大正3年]図書館(現有終館)で読書に励む学生たち。思い思いの格好で書物に視線を落としているが、まなざしは真剣そのもの。

[大正3年]運動会の棒倒し。水上大運動会と並ぶ同志社の名物で、毎年大観衆を集めたという。

- 一九三〇(昭和五年)十月十七日
同志社校歌・作詩:湯浅吉朗 作曲:大中實(こおひ)
大学歌作詩:北原白秋 作曲:山田耕作(を制定する)
- 一九三七(昭和十二年)五月十日
ヘレン・ケイ、栄光館で講演する。
- 一九四一(昭和十五年)二月十七日
新島先生五十周年記念式が栄光館で挙行される。
- 一九四三(昭和十八年)十一月十五日
出陣学徒壮行式が同志社の全学生生徒参集のもと男子
子部運動場で挙行される。
- 一九四四(昭和十九年)
同志社大学研究所現・人文科学研究所を設置する。



6



7



8



5

昭和初期
~20年

軍靴の足音

昭和十年代に入ると自由な学園にも、軍国主義が陰を落としはじめ、配属将校が駐屯し、キリスト教主義を放棄するに至る。そんな中、十二年にはヘレン・ケイが栄光館で講演を行っている。

【戦時中】栄光館に降ろされた「国民精神総動員大講演会」の垂れ幕。キャンパスにも軍国主義の陰が迫り、同志社の建学の精神もねじ曲げられていく。

【昭和8年】学生服にゲートルを巻き、サーベルを佩刀した学生たち。中段には軍事教練を指導した配属将校がいかめしい面持ちで座っている。

【昭和13年】太平洋戦争前夜の重苦しいムードがキャンパスをおおいはじめめる。そんな憂さをはらすかのよう、ひとときピリヤードに興じる学生たち。

【昭和18年】学徒出陣の出兵式。同志社のキャンパスからもついに夢多き若者たちが戦場へ赴くこととなった。新島裏の胸像も金属非常回収の対象となり、この日キャンパスから姿を消した。

昭和20年
～40年
(戦後)

自由、 ふたたび

終戦を迎え、学舎には平和がもどってくるが、学生には飢餓感との戦いが残っていたようだ。二十年代の後半になると、朝鮮戦争特需の恩恵を受け、やがて高度成長期へと突入していく。

一九四五年昭和二十年八月十五日
太平洋戦争 敗戦

一九四八年昭和二十三年四月
新制大学開校 神・文法・経済および教養の五学部が新たに開設され翌年(一九四九年四月)には商・工二学部が加えられた教養学部は一九五二年三月に廃止。

一九五〇年(昭和二十五年)四月
大学院修士課程を設置する。

一九五三年(昭和二十八年)四月
大学院博士課程を設置する。

一九五四年(昭和二十九年)四月
大学(二部夜間)を開設し、文芸文学科、文化学科(国文学)、法・経済・商・工(電気・機械・工業化学)学部を置く。



戦後の風俗と学生気質

戦後日本の学生は変わったといわれる。男女共学をはじめ、民主化の波が押し寄せ、高度成長と進学熱を背景に学生数も大きく伸びた。一方、ロカビリーやグループサウンズ、フォークソングなどのブームが学圏内を席卷し、大学が若者文化の発信源ともなった。同志社もその例外でなく、むしろカレッジ文化の重要な拠点として全国の注目を集めた時代もあった。



〔昭和28年頃〕同志社の男女共学は、戦前からすでに始まっていた。しかし、女子学生がキャンパスに目立ち始めるのはこの頃から。啓真館横の芝生上ではいくつもこんな交流の輪ができたのだろう。

〔昭和30年頃〕質屋ののれんをくぐる学生。質屋通いは、お金に困ったときの学生の常套手段。質屋で短期資金を調達するのが賢い学生生活のポイントだった？

〔昭和30年頃〕購買部のスタンドで喉をうるおす学生たち。表情は明るく、若者特有の屈託ない笑顔に、もう戦争の暗い陰は見られない。

〔昭和30年頃〕理髪部で順番を待つ学生。整髪60円、丸刈40円のプレートが、当時の物価を物語る。

〔昭和30年頃〕図書館の雑誌を閲覧する学生たち。アプレゲールの流行語とともに新しい文芸活動が起こり、若者たちは新しい価値観を見出そうとした。

〔昭和35年頃〕受験シーズンには正門前で角帽を売る露店が出現。戦後といえども、角帽はまだまだ大学のシンボルであった。

〔昭和35年頃〕世の中が落ち着きをどしどしとした頃の正門前の光景。当時流行ったギャバジンのズボンを粋にはきこなす学生の姿も見受けられる。

〔昭和40年頃〕フォークソングブームがキャンパスにも。ギターを手にした若者たちにとって、広い御所は格好の練習場となった。

大正～
昭和40年代

キャンパス周辺の移り変わり

京都御所の北という立地にあり、つねに歴史的な雰囲気を残すキャンパスだが、やはり時代の移り変わりとともに、街の表情は移り変わっていく。路面電車からバス、そして地下鉄へ。それにつれて学生たちの通学スタイルも変わっていった。



〔大正3年頃〕正門前から撮影した、キャンパスの全景写真。ハリス理化学館、クラーク記念館などがくっきりとシルエットを刻む。左手前の通りは、今出川通でなく、石橋通(現在のキャンパス内メインストリート南側)である。

〔大正3年〕運動会の会場となったのは、現在の同志社中学校のグラウンドあたり。中央の建物はハリス理化学館で、竹藪は相国寺の境内。

〔昭和3年〕電柱に貼られた路面電車の駅名表示のプレート。「今出川御門」とあるが、後の「同志社前」となる。

〔昭和5年〕みんなお世話になったという教科書出版の「平野」教科書を求め店頭で並ぶ学生たちの姿に、当時の学生の向学心がしのばれる。

㉑〔大正期〕ちんちん電車ほど、京都の町並みに合う乗り物はない。御所の木立をバックに石舗装を走る姿は、絵葉書にしたいほど美しい。

㉒〔昭和35年頃〕楠木の大樹は、昔も今もキャンパスのランドマーク的な存在。みんなの談笑の場であり、待ち合わせの目印だった。

㉓〔昭和40年頃〕正門前で、入学試験が終わるのを待つ受験生の父母。時間のたつのがあまりに遅く、京都の冬がひときり身にしみたことだろう。

㉔〔大正15年〕当時の四条通。大丸百貨店の屋上から撮影した貴重な写真。通りの中央に路面電車用の送電線が走っている。

㉕〔昭和35年頃〕丸丸今出川の路面電車を待つ同大生。㉑の学生の服装との比較が面白い。塀の向こうに見えるのは啓真館。のちこここに図書館が建つことになる。

㉖〔昭和45年頃〕丸丸今出川の「元文堂」は、まさに同大生御用達の書店だった。登下校時、参考書や新刊書をちょっと手にするには絶好といえるロケーションだ。





ちんちん電車と同大生

明治28(1895)年、日本で初めて路面電車が京都にお目見えした。京都市内をチンチンと鐘を鳴らしながら走った。以来「ちんちん電車」の名で市民に親しまれてきた。当然、同志社周辺にもこの電車が走り、同大生の大切な通学手段だった。飲みに行くにも、買い物に行くにもみんなこのちんちん電車にお世話になってきたのだ。



CAMPUS NEWS 1

キャンパスニュース 1

001

第二回 ライディングスクール イン Doshisha 開催

京田辺市内では、単車・バイクによる交通事故が多発しているが、田辺警察署交通課によれば、市内の人身事故のおよそ二〇%が本学の学生・生徒が関係する事故となっている。

そこで昨年に引き続き、田辺警察署主催の本学学生・生徒を対象とする「第二回二輪車安全運転大会」が五月十四日に、山城田辺自動車教習所で開催された。

幸い好天に恵まれ、白バイによる模範演技の後、二十人の学生が法規順行走行や技能走行などの競技大会に参加するという形で、楽しみながら安全運転の技術習得に励んだ。

約二時間にわたる競技大会後、成績優秀者の表彰式がおこなわれ、田辺警察署長から賞状と記念品が授与され、盛会のうちに終了した。

今後とも関係各機関と協力しながら、学生・生徒の安全な通学のために努めていきたいと思います。



002

外国人による 日本語弁論大会に出場 着物文化に魅せられた 中国人留学生



中国からの留学生、趙さんは、第四十一回外国人による日本語弁論大会予選を通じ、六月十日、長崎市で開催された本選に出場、「着物と私」という題で堂々とスピーチを行った。

趙さんは中国・大連の出身。大連外国語大学で日本語を学んだのち、約一年間通訳をしていたが、より日本語らしい日本語を学びたいと来日。留学生別科をこの九月に修了し、日本語に「いっそう磨きをかけた」とくに敬語は外国人にとって難しい。中国語にも敬語はありますが、もっと簡単です。日本の着物には、中国にいるときから関心を持っていた。そして着物文化の中心地、京都で留学生生活を送るようになり、全日本きもの装いコンテスト

(外国人の部)出場のために初めて憧れの着物に袖を通す機会に恵まれた。「初めて着物を着た時、とにかくうれしただけでした。でも着付けの先生から着物を着るときは内面の美しさが大切であることを教えられていくうち、それまで気づけなかった日本の文化の奥深さを知るようになっていったのです。」

着物を美しく着こなすためには、それにふさわしい精神や立ち居振る舞いが求められる。弁論大会では惜しくも受賞はならなかったが、スピーチの内容は、そのときの体験をもとにしたものだ。

着物には、敬語に通じるものを感じると趙さんは言う。座る姿、歩く姿が自然と美しくなり、そこに礼儀正しさを感じる。

五十六もの民族がいる中国。代表的な民族衣装といえはチャイナドレスだが、これを着ると、背中を真っ直ぐにして歩くようになります。これも「礼儀の衣装」ですね。チャイナドレスを着る人は知的なキャリアウーマンという印象があります。と趙さんはさすが、中国でファッションモデルをした経験のある女性らしい観察力だ。

現在中国では、民族の文化を再認識しようという動きが若者の間に広がりつつあるという。日本でもこの伝統的な着物文化が、若者に受け継がれてほしいものだ。

滞日中に学んでみたいのは日本舞踊と生け花。留学生別科を修了したあと、京都大学大学院でさらに勉学を続けている。

「生活、服飾、経済、コンピュータ。日本について、もっと多くのことを学びたい。そして今後も着物を通して、日中交流を深めたいと思っています。」

003

国際法模擬裁判大会 (ジャパン・カップ)開催

国際法模擬裁判大会「ジャパン・カップ」は、アメリカで行われる「P.C. Jessup International Law Moot Court Competition」と呼ばれる世界的な国際法模擬裁判の日本版と位置付けられており、一九九〇年から毎年開催され、今年で十一回目を迎える。

今年度のジャパン・カップは、同志社大学を会場とし、学生実行委員の全面主導のもと、全国から十二大学（東京大学、京都大学、大阪大学、一橋大学、東北大学、早稲田大学、慶應義塾大学、神戸市外国語大学、青山学院大学、学習院大学、法政大学、同志社大学）約百人が参加した。

「テロリスト引渡に関する事件ヴェルド（Verd）対オルディナ（Ordina）」というテーマについて、各校が原告および



び被告の立場で各一ラウンドずつ対戦し、国際法研究者（大学教授・大学院生など）が裁判官として審査を行い、三チームが決勝ラウンドに進出できるという勝ち抜き戦。この決勝ラウンドに進出した三チームが原則としてANS EANNの七カ国が参加するアジア・カップ（東京開催）に出場できる権利を獲得する。ちなみに今回の決勝ラウンド進出校は東京大学、京都大学、早稲田大学、優勝は京都大学であった。

運営委員長である尾上宏典さんと本学法学部法律学科三年次生（は）はこの国際法模擬裁判大会で求められるものは、単に国際法の知識を吸収する能力だけでなく、弁論能力やある事例に対するリサーチ力なども求められ、これらの能力というのは、社会に出た際に必要とされるものであり、それを学

生時代に修得できるという点において大変有意義であります。興味のある方はごんごん参加してほしいです」と語ってくれた。

004

自動車の世界的会議で 最優秀論文賞

六月十二日十五日、韓国のソウルで

SEOUL 2000 FISITA World Automotive Congress が開催され、工学研究科数理解環境科学専攻修士課程二年次生の山川敦さんが論文コンテスト（Young Youth Cong. Program）で最優秀論文賞を受賞し、賞金一〇〇〇ドルを手にした。FISITA World Automotive Congress は毎年一度開かれる自動車関連最大の世界的国際会議で、これまでソウルで多く開催されており、参加者は毎年八百人以上にのぼる。

この国際研究発表会では、大学院生など若手研究者を中心とする講演会



も開催され、山川さんは（社）日本自動車技術会からの派遣研究者三人のうちの一に選ばれたもの。

山川さんは、学部時代「機械システム工学科」から現在まで藤井透工学部教授の研究実構造工学でCVT無段変速機（の伝動メカ）ラムの研究を続けている。

005

証明書自動発行機設置

十月二日（月）から在学生向けに証明書自動発行機が使用可能になる。

発行できる証明書の種類と発行機の設置場所は次のとおり。

種類

在学証明書・成績証明書・卒業見込証明書・修士学位取得見込証明書（以上英文・和文）、教育職員免許状単位修得見込証明書・健康診断書（以上、和文のみ）

卒業・修了証明書は予約受付可能

設置場所

今出川校地…弘風館一階、明徳館地下
京田辺校地…副業館京田辺校地教務

事務室入口、

理化学館一階

なお、発行には学生証と生協のプリペイドカードが必要である。

電子ペット 開発者を訪ねて



石川 猫型ロボットを開発されていると伺っていますが、なぜロボットをロボット化しようと思ったのかその動機をお聞かせください。
 田島 まず私たちの頭にあったのは、何か新しいものを作ろうというところでした。オムロンは、医療関連商品が一般的にはよく知られていますが、一方以前からマシーナという技術に取り組んでいて、人間の持つ知恵を何と

か機械に埋め込めないものかと研究していました。その技術を生かして、一般向けの商品を開発しようという試みが今回の電子ペットになったわけです。

石川 なぜ猫だったのでしょうか。

田島 開発のコンセプトは、役に立たないものをつくる、ということでした。では役に立つとはどういうものかといえます。掃除をするとかご飯を炊くとか人間に替わって何かをやってくれるもの。物理的に働きをするものを私たちはそう呼ぶわけですね。じゃあ、役に立たないものは何かというと、おもちゃであるとかペットとかですね。確かにこれらは物理的な有益性には乏しい。でも、なんの役にも立っていないのかというとそうではありません。なぜ人はペットを飼うのかを考えていただければ分かると思います。精神的な働きかけを期待しているからペットを飼う。精神的な充足であるとか、癒しを与えてくれるから飼うのです。この電子ペットについてもいろいろありますね。でも、精神的な充足とか、癒しとなると身近で、扱いやすいものがない。そうすると必然的に犬が猫かということになる。結局、動き回らなくても



たしま としひろ
 田島 年浩さん

【1984年工学部電子工学科卒業】

1961年生まれ、京都府出身。1984年オムロン株式会社に入社。技術本部IT研究所に勤務。主にセンサー技術、ファジー技術の研究に従事していたが、1997年から電子ペットの開発に取り組む。山登りとカメラが趣味で、時間をつくっては、ニュージーランドやアラスカに出かけるという。



ELECTRONIC PET
 "TAMA"

豊かな表現力があり、抱いて似合う猫に落ち着いたのです。
 石川 とうじつた方を対象に開発されたのでしよう。たとえば、ペットが飼えないマンション生活者とか。
 田島 実際に欲しがられるのはそういう方

ですね。その他には、高齢者とか入院されている方などを想定しています。

石川 私は犬も猫も飼っているのですが、猫は難しいですよ。呼べば犬は飛んできますが、猫は来たり来なかったり気まぐれで、予測不可能な動きをしますよね。

田島 そうなんです。私もどちらかというと犬派だったのですが、今回の開発にあたっては猫をいろいろと観察したところ、おもしろいように奥が深い(笑)。でも考えようによっては、気まぐれなら、気まぐれに動かさせていけばいいわけですから簡単だ。むしろ問題は、犬にはないしなやかな身のこなしですね。機械でつくるのは相当難しい。

石川 「タマ」という名前は、

田島 商品を開発するにあたってとりあえず名前をつけたいといけないうわけ、猫といえば「タマ」だろうという実に単純な理由で名付けました。

石川 と「タマ」で、電子ペットはいくら生き物のように動いても所詮仮想現実ですね。最終的には物ですから、たとえば最近の少年事件にあるように、「これをいじめてその反応を実際の動物で試してみたくならない」とも考えられないことではない。

田島 実は、試作段階でいろいろの方にインタビューしました。中には今おっしゃったようなデメリットを強調して「くるべきではない」と主張される方もあった。しかし、おおむね肯定的な意見が多く、「いつもは一人で寂しく食事をとっているけど、電子ペットを食卓に乗せて話しながら食べると食が進む」と語る一人暮らしの高齢者もいらっしゃいました。「情操教育になるから、たたくと凄く怒るの

口ヲラムを組んで欲しい」と話される主婦もおられた。

石川 アマルセラピーの効果も期待できそうですね。

田島 犬と違って猫はきめ細かいスキンシップができます。だから「タマ」もぬいぐるみロボットになっているのですが、自閉症の方などの「ミニマニケーション」にも効果的であり、リにも役立つと考えられます。電子ペットの話題で新しい人間関係が生まれることも期待できますね。私たちは工学的な視点から商品を開発しましたが、商品の性格上「これはどうしても心理学や精神医学の見地からの意見も聞いておこう」と専門家を訪ねたりしましたが、皆さんさっぱりしていいんじゃないですかとおっしゃる。動物愛護団体から苦情もないし、あまり神経質にならなくていいのかもしれない。確かにデメリットはあるが、それは購入する方と考えていただくというところでいいんじゃないかと考えるようになりました。

石川 「タマ」はいろいろ商品化されるのでしょうか。

田島 これはまだ試作品なんです。改良を急いでいるのですが、新しいバージョンではもう少し表現力を増やし、学習機能を充実させ



せて飼い主に適応していけるものを目指して考えています。社内的には、もつとエンターテインメント性を出したらどうかという意見もあったのですが、私は開発当初から、ペットの持つ「癒し」の効果を電子ペットに託してみたいと考えてきました。

石川 ペットを飼いたくて実際に飼ってみたけれど、やむを得ない事情で飼い続けられなくなったというケースもありますから、そんな方に電子ペットはいいと思いますね。ところで田島さんは、学生時代からロボットに関心があつたのですか。

田島 いいえ、ロボットにはそれほど興味がなかった。主として音を利用した計測センシングについて勉強していました。このようなセンシング技術は電子ペットにも生きているのですが、当時はロボット開発など思いも及ばなかった。電子ペットのテーマを知る前は化学工場で働くコントローラーを開発していました。熟練オペレーターの操作知識を「コントローラー」に埋め込み、自動制御できる学習型のコントローラーです。これは、專業的に大きくてきなかつたので長続きせず、これと同様の技術、つまり人間のように知意を持ち、学習しながら進化する新しい機械というコンセプト型のロボットの開発をスタートしました。

石川 研究生活はたいへんだと思うのですが、何か趣味はお持ちですか。

田島 趣味は山登りとカメラです。学生時代は、校友会という山登りのサークルに入っていました。今は忙しいのでなかなか時間がとれませんが、山や自然が好きで、時間ができたら国内はもちろん海外にも出かけたいですね。なぜ山登りが好きなのかとよくたずねら



れませんが、やはり達成感ですね。目標を決め、自分を叱咤激励しながら頂上に立つ達成感は何物にも代え難い喜びがあります。あの意味では研究生活も似たところがあって、今回の電子ペットの開発にしても、学会発表という大きな目標のもとに三年間研究を続けてきたんですね。

石川 振り返ってみて田島さんの学生時代といつのはいかがでしたか。

田島 現在、研究にあたっていろいろな大学に行く機会が多いのですが、私は本当に自由な学生生活を送ったという実感ですね。今にして思えば、いろいろなチャンスがいっぱあったにもかかわらず、トライしなかった。もし今の時代に学生にもどれるとすれば、ぜひ学生ベンチャーをやってみたい。というのは大きな組織に入ると、たとえば開発職にいると経営の知識までなくてもやっていける。しかし、事業というのはやはり経営という骨格があつてはじめて成り立つものです。時間がたつぷりある学生時代に、学生ベンチャーを作って経営の経験をしてみたかったですね。石川さんは、今勉強以外に何かしているのですか。

石川 人形劇団で、幼稚園を中心に公演活動をしています。

田島 学生時代にいろいろなことにチャレンジするのはとてもいいことだと思います。そしていろいろな機会を見つけて社会との接点を持つて欲しい。

石川 人形劇の公演のあと、子供たちのご両親と話す機会があるんですが、とてもいい勉強になります。

田島 クラブ活動でもアルバイトでもいいの

ですが、それを通じて社会と接することが大切だと思います。現実の社会というものがどういうものか分かるし、自分の進むべき方向性も見えてきます。私は今オムロンという会社の研究室で仕事をしていますが、他の世界はどうだろうとやはり気になります。だから、学生時代には社会とできるだけ多くの接点をつくっているところを覗いてみるべきです。それによって、自分の確かな夢も育めると思っていますね。一番いけないのは、自由で選択肢もいっぱいあるにもかかわらず、自分で決断せず流されるままに生きていくことです。社会人でもよくいるのですが、自分で自分の目標を設定できない人、そしてたとえば上司に目標設定してもらい、その目標に向かつて仕事を遂行していく過程でそれがうまく進まない時、目標が悪いなどと理由付けし、責任転嫁してしまう人がいます。しかし、それではその人の能力は伸びませんし、結果は出ません。自分でしっかりと目標を設定し、その目標を達成することに責任を持って取り組む姿勢が大切です。学生時代から、研究テーマやクラブ活動でいろいろな事にチャレンジする過程で、そのような姿勢を作っていくことをお勧めします。

石川 どうも、ありがとうございます。



自然界の好きな田島さんが発想すると、電子ペットも人間とのふれ合いを志向する。

最近は電子ペットがたくさん出回り、一種のブームのようになっています。でも田島さんたちが開発されている電子ペットのタマに出会って、「これは、私が知っている電子ペットとちょっと違うな」と感じました。私自身、犬と猫とハムスターを飼っているのだから、ペットは家族同然であり、気持ちやなごめられることがとても多いのです。田島さんのお話にも出てきましたが、開発にあたっていろいろな人にリサーチし、電子ペットの功罪まで検討されました。そして、おもちゃの延長ではなく、人間とペットとの関係性を大切にしたい電子ペット開発に挑戦されているのです。しかし、仮想は仮想であり、生きたペットとはやはり違う...と考えると、ちょっと複雑な気持ち。自然とふれ合うことが大好きな田島さん自身が、そのあたりの矛盾を一番感じておられるような気がします。

INTERVIEWER

石川 真理さん

【法学部法律学科】
3年次生



小学生時代の5年間をシドニーで過ごす。英語は苦勞せず自然に身についたと語る。同志社国際高校を経て、現在法学部に学び、将来は司法書士をめざして勉強中。人形劇団「阿呆加座」に所属し、副座長を務める。



伝統の技との出会い

祇園の結髪師

「京都における職人の技と歴史」をテーマにした経済史の授業を行った。経済学部西村卓教授は、六月二十三日京田辺校地で祇園の結髪師である石原哲男氏を招いて公開授業を開催した。西村卓教授のゼミ生が卒業研究のために石原氏取材したのをきっかけに生まれた縁で、今回の授業が実現。当日は、島原太夫の髪が結える唯一の結髪師を講師に迎えることとなり、多くの学生が聴講。舞妓と島原太夫の髪結いの美演に熱い視線が集まった。



石原 哲男さん

石原哲男さんは、関西理美容専門学校で学んだのち、六年間の美容院勤務を経て独立。二十六歳で祇園に美容室「やまと」を開業する。土地柄から舞妓、芸妓のお客が多く、日本髪への興味が高まり、太夫の髪結い師に教わろうとしたが門前払いされる。やはり伝統の職人芸は門外不出なのかとあきらめていたところ百々喜子（どどきし）さんに出会い、結髪師の世界へ。その後は、個展開催や「歴代の髪型」京都書院など、出版活動にも積極的に取り組む。

日本の結髪の歴史は古く、古墳時代までさかのぼる。当時は女性だけでなく男性もまた結髪していたという。この結髪文化が花開き、数多くの髪型が生まれたのが江戸時代である。そしてさまざまな髪型の流行を生み出したのが舞妓や太夫ら、花街の女性たちだった。祇園で美容室を営む石原さんが、ちょとに訪れる舞妓や芸妓を見ながら、自分も彼女たちの髪を結てみたい」と思い立つたのは当然かもしれない。しかし、花街の結髪職人の世界は閉ざされていた。まる一年さがしあぐねた末、偶然結髪の技術を教えてくれる結髪師にめぐり会った。石原さんは、その後日本髪の世界にのめり込んでいくことになる。太夫の髪型を、ほびかせてもらいながら技術を盗んだこともあったという。

「髪をとかし、前髪からびんへと」コブをあて油を塗る。舞妓の髪型にはべると、太夫の髪型は実に大仰なもので、重量は数キログラムにも達し、そのため油をたっぷり使いさつく結う。結った髪は、舞妓なら一週間、箱枕を使って持たせるが、太夫はさすがに毎日結つたのだそうだ。舞妓の髪型のモデル役を務めた佐藤ゆいさん（経済学部一年次生）は「コブは熱いし、髪は引く張れて痛かった」と語り、一方太夫のモデルを務めた桑裕香里さん（経済学部二年次生）は「顔がもう一つでさくらくらい重いです」と感想を述べていた。

現在、京都で活躍する結髪師は石原さんを含めて五人。石原さん以外はすべて女性だといふ。しかもこのまま高齢化が進めば、祇園の舞妓や芸妓の髪が結える結髪師は消滅する」とも考えられる。現に、島原太夫の髪が結えるのは、今や石原さん一人なのだ。石原さんが個展を開き、写真集の出版に積極的に取り組む理由もそこにある。皆さんは写真集とあ

「私には資料集だと思っています」と語ると、結髪師はもともと、髪飾りも着物も本物を作ることでかかってくる職人がいなくなりつつあるという現実から、日本髪を文化を残せるのは、今しかないという強い意識が働くからだ。改めて写真集にしたり、ビデオに収めて技術を後世に伝えたい、そんな思いが石原さん突き動かすのだ。石原さんが髪結いの世界を志したとき閉ざされていた戸戸。石原さんは、それではだめだ」と言う。他人に技を見せ、盗まれるような技は技ではないのです。むしろ、先生から受け継いだ技術を、私たちは次の世代に伝える義務があるのです」と語る。浮世絵を見ながら百種類を超える江戸時代の髪型を現代に再現してみせた石原さんにとって、結髪は祇園に花街文化が残るかぎり生き続けるべき文化なのだ。博物館のガラスケースに収められた物を作り出したら職人はおしまい。現実の生活の中で機能させてこそ職人だし、われわれの受け継いだ技術はそのためのものなのですよ」と語る。

現在、合理主義の名の下に多くの職人文化が消滅の危機に瀕している。講演に先立ち、西村卓教授が今日の講演を通して、従来の発展論ではなく、職人とその技と共存できる二十一世紀型の発展のあり方を考えるきっかけにしてほしい」と語ったように、日本文化のアイデンティティを見失わないためにも、私たちは伝統文化にもっと注意深くあるべきだと、職人もまた石原さんが言うように、形だけを大切にするのはなく、時代に適応できる柔軟性を持つべきなのだ。



1999
年度

大学決算について

財務部 経理課

1999年度大学決算は、5月11日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月27日開催の法人理事会において承認されました。

収入の部

学生生徒等納付金は231億円で、収入総額に占める割合（学費依存率）は72%となり、前年度に対し3ポイント低下しています。

手数料は12億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は2億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、教育研究基金宛寄付金および機器備品・図書等の現物寄付金などです。

補助金は33億円で、国庫補助金が主なものですが、そのうち経常費補助金では一般補助において奨学事業の実施状況による配分基準の加算、特別補助において新規項目の採択などにより増収になりました。また、施設設備対象の補助金においては防災機能等強化緊急特別推進事業、教育・学習方法高度情報化推進事業、最先端研究所等整備特別事業などの追加申請により予算額を9億円上回りました。

資産運用収入は6億円で、基本金引当資産の運用収入および預金等の受取利息・配当金などです。

事業収入は1億円で、企業からの委託研究費などの受託事業収入が主なものです。

雑収入は9億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に対する法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は6億円で、当年度除却固定資産に係る資産取得価額です。

借入金等収入は3億円で、当年度建設事業に対する借入額です。

収入の部合計は、使途特定の特定支出準備金取崩額を加えて317億円となり、補助金の増額などにより予算に対して10億円の増収となりました。

支出の部

人件費は137億円で、支出合計に占める割合（人件費比率）は43%となり、前年度に対し5ポイント低下（改善）しています。

教育研究経費は80億円で、大学の経常的な教育研究活動に要した経費です。主に研究費および実験実習費、委託研究費の予算繰越による未執行残、光熱水費の節減および通信設備更新による通信費の削減などにより、予算額を2億円下回りました。

管理経費は8億円で、大学の維持管理に要した経費です。主に経費の節減による執行残により予算額を下回りました。

施設関係支出は21億円で、扶桑館改修による演習教室等の整備、寧静館地階の情報処理教室の新設、知真館教室へのLAN敷設および同志社びわこリトリートセンター建設事業などの施設整備事業が主なものです。

設備関係支出は15億円で、教育研究用機器備品・図書など固定資産の取得に係るものです。なお、予算計上後の補助金対象事業の追加申請による支出増加がありますが、予算内での執行となりました。

借入金等返済支出は33億円で、過年度建設事業に係る借入金の返済額です。私学事業団借入金については定時償還分を、市中銀行借入金については自己資金を留保するため返済を繰り延べた借入金を償還計画にもとづき返済しています。

第2号基本金組入額は、組入計画にもとづき、教学施設整備資金9億円、研究装置設備等整備資金2億円、情報基盤整備資金1億円の合計12億円を組入れています。

第3号基本金組入額は、組入計画にもとづき、同志社大学奨学基金に5億円、国際交流基金に2億円を組入れたほか、特別寄付金ならびに基金果実の使用残額など合計7億円を

組入れています。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算にもとづき必要額を組入れています。

支出の部合計は、使途特定の特定支出準備金繰入額を加えて321億円となり、経費の執行残および予備費の未執行などにより予算に対し5億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は、経常勘定においては収入超過となっていますが、建設勘定では依然として多額の支出超過を計上することになり、合計4億円の消費支出超過となりました。

また、累積消費収支差額としては、翌年度以降の消費支出に充てるための消費支出準備金繰入後の支出超過額21億円により、さらに膨らみ、翌年度以降に173億円の消費支出超過額を繰越すことになりました。

借入金

借入金残高は、当年度建設事業に係る新規借入金の増加があるものの、これを上回る借入金返済による減少により、前年度末に対し30億円減少し当年度末の借入金残高は89億円となりました。

累積赤字

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。

したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

なお、この自己資金の不足額は前年度末の270億円に対して、当年度末は261億円となり、9億円減少しました。

人件費比率の引き下げ、経費の節減および補助金の新規開拓などにより学費依存率を低下させつつ、財政の改善を図ることができました。

（本文中の金額については1億円未満を四捨五入しています）

1999年度 収支計算書

1999(平成11)年4月1日から2000(平成12)年3月31日まで (単位:千円)

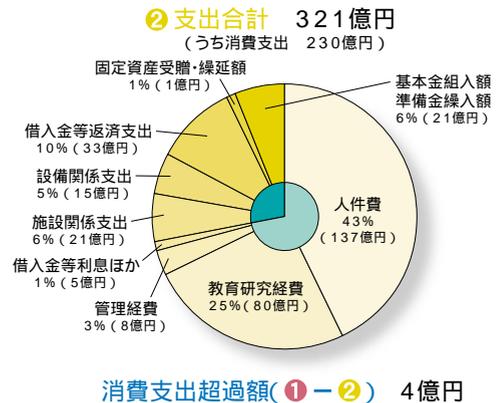
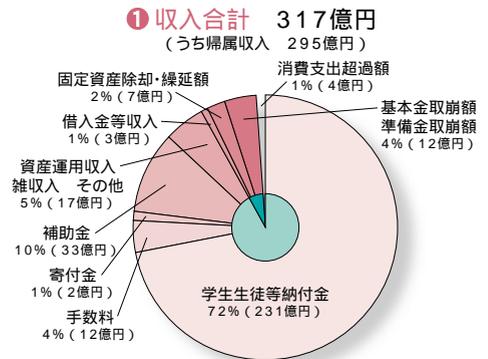
収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	23,108,880	23,138,461	29,581
手数料	1,184,800	1,169,605	15,195
寄付金	140,940	203,460	62,520
補助金	2,401,700	3,295,765	894,065
資産運用収入	539,850	561,825	21,975
資産売却差額	0	10,913	10,913
事業収入	95,160	129,861	34,701
雑収入	632,240	851,166	218,926
繰出金	7,430	7,098	332
分担金	148,810	148,810	0
帰属収入合計	(28,259,810)	(29,516,964)	(1,257,154)
固定資産除却額	420,950	643,878	222,928
前年度基本金組入額繰延額	9,020	9,021	1
第2号基本金取崩額	860,000	760,000	100,000
借入金等収入	700,000	301,100	398,900
当期末未払金	0	26,575	26,575
基本金過年度組入額、未組入額合計	(1,989,970)	(1,740,574)	(249,396)
特定支出準備金取崩額	481,910	466,331	15,579
収入の部合計	[30,731,690]	[31,723,869]	[992,179]

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	13,440,550	13,665,861	225,311
教育研究経費	8,303,170	8,058,807	244,363
消耗品費他	5,734,490	5,490,719	243,771
減価償却額	2,568,680	2,568,088	592
管理経費	865,330	794,556	70,774
消耗品費他	781,930	710,663	71,267
減価償却額	83,400	83,893	493
借入金等利息	268,600	264,976	3,624
資産処分差額	0	44,281	44,281
徴収不能引当金繰入額	59,830	52,870	6,960
徴収不能額	0	4,674	4,674
繰入金	91,870	100,435	8,565
予備費	100,000	—	100,000
消費支出合計	(23,129,350)	(22,986,460)	(142,890)
施設関係支出	2,357,030	2,059,661	297,369
設備関係支出	1,720,710	1,536,400	184,310
固定資産受贈額	0	53,987	53,987
翌年度基本金組入額繰延額	16,360	1,475	14,885
借入金等返済支出	3,275,220	3,276,317	1,097
前期末未払金	22,710	23,421	711
第2号基本金組入額	1,200,000	1,200,000	0
第3号基本金組入額	723,160	733,450	10,290
第4号基本金組入額	37,000	37,000	0
基本金組入額、当年度組入額合計	(9,352,190)	(8,921,711)	(430,479)
特定支出準備金繰入額	77,570	167,192	89,622
支出の部合計	[32,559,110]	[32,075,363]	[483,747]

収支差額			
科目	予算	決算	差異
当年度消費収支差額	(1,827,420)	(351,494)	—
消費支出準備金繰入額	589,770	1,719,132	—
消費支出準備金取崩額	0	0	—
繰入取崩後当年度消費収支差額	[2,417,190]	[2,070,626]	—
前年度繰越消費収支差額	[15,190,530]	[15,190,529]	—
翌年度繰越消費収支差額	[16,007,720]	[17,261,155]	—

借入金			
科目	予算	決算	差異
前年度未借入金残高	[11,835,340]	[11,835,339]	—
当年度借入額	700,000	301,100	—
当年度返済額	3,275,220	3,276,317	—
当年度未借入金残高	[9,260,120]	[8,860,122]	—

収支構成図



消費支出超過額(①-②) 4億円

用語解説

収支計算書

学校法人会計基準にもとづく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが「収支計算書」です。

基本金

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。



岩下 正弘
【商学部教授】



西村 幸剛
4年次生



真鍋 武明
4年次生



猿木 健
【総務幹事】3年次生

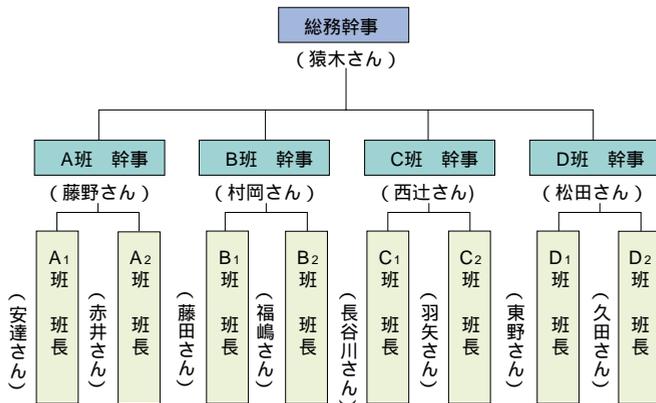
“全員責任制度”のもとで研究論文作成のノウハウを学ぶ。

商品学を学ぶ岩下ゼミでは、十二月に開催される、日本学生商品学会へ、関東学院大学との合同研究発表会に向けて着々と準備が進んでいる。ゼミ生四十人がAからDの四班に分かれ、班の責任担当を決めるとともに、班内でさらに1班と2班に分かれ、それぞれの研究を進めていく。班割は図のようになっている。各班长、それをまとめる幹事、さらに全体の調整と、先生との連絡役を務める総務幹事が決められており、先生からの連絡事項は、総務幹事を介して全ゼミ生に伝わるようになっている。岩下先生はこれを「全員責任制度」と呼び、ゼミ生全員がゼミ運営に何らかの形で責任を担い、学内・学外での研究発表を通して、研究論文を書く力とプレゼンテーション能力を磨いている。今日は、四年度次生を交えて十二月の「日本学生商品学会」に向けての準備とゼミ活動の意義について話し合った。

猿木(総務幹事) 岩下ゼミは、商品開発と市場のニーズの関係について、さらに品質保持、環境保全について学んでいるわけですが、A1班からD2班まで、ゼミ生全員が自分たちが決めたテーマに取り組んでいただきたいと思っています。それでは、今日は先輩たちもいろいろやるので各班の活動、研究テーマを紹介し

てください。

藤野 A班は、A1班がマーケティング管理、A2班が広告のマーケティングについて研究していきます。またゼミ活動においては、具体的な構想にまではいたっていませんが、ゼミの活動をインターネットを通じて公開する役割を担っていきたくと思っています。



村岡 私たちB班は、B1班が国際化時代の社内標準化について、B2班が製品開発について研究するつもりです。グローバルスタンダードは製品開発の重要な指標にもなっており、これに関するさまざまな資料も収集していきたいと考えています。関東学院大学の石崎ゼミの研究テーマとも共通しており、合同研究発表での交流を楽しみにしています。またB班は、岩下ゼミ全体の台所を預かっており、各班の日常的な報告資料の作成費用や工場見学、台宿、コンパ等々の会計全般の運用に責任を担っています。

西辻 C班は主にゼミ活動の二つ、工場見学を担当します。工場見学は年に二度行われ

“全員責任制度”のもとで研究論文作成のノウハウを学ぶ

ですが、私たちはこれをスムーズに行うために実際に工場に足を運んで下見をして実施計画案を作ります。昨今、工場見学を受け入れてくれる企業は減る傾向にありますが、六月にはキリンビールの滋賀工場でお世話になり、見学後、とても有意義な質疑応答の機会を設定していただきました。とくにC班は工程管理や品質管理、品質保証、さらには製造物責任をC班固有の研究領域としていまして、実際の企業活動を見ることができてとても有益でした。

松田 D班は合宿や同窓会、親睦会などの



ゼミ全体の活動を担当します。五月に行った親睦会では、ゼミ生同志や先生との関係が非常に深まったように思います。六月のゼミ合宿もD1班の頑張りもあって充実したものであったと思います。D班の研究活動については、D1班がリアマーケティング手法を用いた市場分析、D2班が環境マネジメントシステムの国際基準ともいえるISO14001を中心に進めていきます。

猿木 次に、岩下ゼミの取り組みの一つでもある「日本学生商品学会」について先生から説明していただきます。

岩下 この研究発表会は、今から三十八年前に「日本学生商品学会」として発足しました。当初は五校から六校の大学が参加し、発表論文は「Warren」商品という本にまとめて発刊していました。結局三十五巻まで出たんですかね。その後、財政的にうまくいかなかったり、今は同志社大学と関東学院大学の二校で行っています。この研究発表会のいいところは、他流試合に よって真剣に研究論文を作るんですね。



昨年は同志社大学から三題、関東学院大学から一題の論文が出ました。どんなテーマで論文を書くかはゼミ生諸君に任せていただいて、アドバイスはするが、ゼミ生次第。ただし、決めたからには全員が何かの仕事を必ずしてもらいます。これが当ゼミの“全員責任制度”なんです。

猿木 十二月の研究発表会に向けてすべきことは、前任者から引き継ぎを受けたのだでいたい分かりますが、関東学院大学の石崎ゼミナールとの事前のやりとりも、かなりシステム化されているんですね。岩下 そうですね、ます七月頃に

互いの研究発表テーマを交換します。それから夏休みに入るわけですが、その間に必要な資料を収集するとともに、論文の骨格を決めます。そして論点、経過状況、参考文献などを交換し合います。秋学期に入るとすぐにこれに関する質問書を送ります。例年



ですと十一月中頃には論文が完成しているでしょうが、ここでお互いの論文を交換し、これを読んで質問項目を整理し相手に送付します。ですから研究発表にはしっかりした回答も準備された形で臨むこととなります。こうして学外での研究論文発表とはどういうものか身に付けることができるんですね。

松田 西村さんは、昨年研究発表会の司会をされたんですね。

西村 大変でしたね。僕らの研究発表会のテーマは、衣・食・住における安全性と快適性「だったんですが、内容が多方面に広がり過ぎて、司会者として結論を引き出すのが困難になってしまった。それから、みんながまとめた論文がどれもページ数が多く、とても時間内に収まりそうにないんですね。結局、話し合いついて自分が主張したいところを簡潔にまとめて発表してもらったことで、何とか收拾しました。あまり深く入り込むと時間が足り



ないし、かたしてさらりと流してしまつて面白くない。難しいんですね。

西辻 真鍋さんの論文は五〜六十ページにも及んだそうですね。

真鍋 西村くんの話は、二泊三日の研究発表会だけの話だつたと思つんですが、実はそれまでが結構大切なんですね。皆さん、もう研究テーマを決められたんでしょう？

猿木 はい、ユー・Ｔが消費者に与える影響というところでＡ班がインターネット広告、Ｂ班が電子キル、Ｃ班がプライバシー保護、Ｄ班が携帯情報端末について、それぞれ発表することになっています。

真鍋 そうですか。各班、どういつ理由でそのテーマを選んだのか後で聞いてみたいといけないなあ。僕の場合はアルバイト中に、太陽電池、これだ、と思ひ立ちましてね、住宅用太陽ソーラーシステムの安全性について研究したいと主張しました。しかし、自分でいくら思ひ込んでも、班のみんなが同意してくれなければどうにもならない。そこで説得材料を揃えましてね、かなりの精力を使いました。自分がちゃんと納得できるテーマを選ばないとやはりいい研究論文をまとめられない。



猿木 とところで、僕はジャンケンで負けて総務幹事を仰せつかったんですが、笑、総務幹事は毎年そうやって決めているんですね。

岩下 以前、あなたの方の先輩で、やはり総務幹事を務めた人がいたんですが、卒業後ご両親からお礼の連絡をいただきましてね、同志社に行つてから性格が変わつた、と。要は最初から適任者なんてない。役割が人をつくるんですね。

西村 皆さんはもう親睦会で経験されたかもしれませんが、先生はすごく人間関係を大切にされるでしょう。医者に止められているにもかかわらず、深夜まで僕らの酒宴のつきあいをしてくださる。しかも無礼講です。

岩下 大学というところは人間形成の場です。だから、できるだけ多くの人と接触し、経験を積んで人間としての幅を広げて欲しい。論文作成もそうです。資料を収集することなんていつでもできる。問題はその資料を統合する力なんです。幅広い見識と人間性がないとそれができないんですね。

猿木 今のお話を聞いて、論文作成や研究発表ももちろんですが、ゼミ合宿や親睦会にも意味があることが分かりました。これからもゼミ活動にみんな積極的に取り組んでいきたいと思ひます。



CAMPUS

キャンパスニュース 2

NEWS 2

006

「世界の海が教えてくれたこと」
水中リポーター
須賀潮美さんをお招きして



六月十四日、京田辺校地多目的ホールラウンジでのアセッションリーアワーは、水中リポーターとして活躍している須賀潮美さんを招いて行われた。最近のダイビング人気や同性としての関心の高さからか、女子学生が多い和やかな雰囲気での講演会となった。

須賀さんは学生時代からテレビ番組「ニュースセッション」で水中リポーターを務め、北海道知床半島の流水の海から沖縄と那国島の海まで日本各地や世界各国の海、川、湖などで着いた経験を話している。講演では、フロアでメキシコ湾で撮影したマナティとのふれあいや世界の美しい海のビデオも上映しながら、その時の思い出や失敗などのエピソードを語ってくれた。

一方で、自然環境が悪化している現実について、小さな魚たちと同様に人間も自然の一部です。その人間が環境

を壊しているのはおかしいですよ。誰かに怒られるから自然を守るのではなく、自分たちのためにしてほしいです。日本には世界にはないとても美しい豊かな海があります。豊かな自然の財産をもっと大切にしてほしい」と世界中の海を見てきた須賀さんの説得力のある言葉に、日常生活についても考えさせられる講演であった。

海の中の別世界を楽しめるダイビングのおかげでストレスは感じたことがないという須賀さん。講演後、学生からの質問に熱心に答えていた。その姿からは今後ダイビングに情熱を傾けていきたいという思いが伝わってきた。さらに現在では、大学院へ進学し、以前から興味があった海洋生物の研究に力を注いでいるということだ。



007

一・二年次生向け 動機づけセミナー

就職部では十月から十二月にかけて、京田辺キャンパスで、一・二年次生を対象に「動機づけセミナー」を実施する。「セミナー」では就職するとはどういうことなのか、どのような心構えが必要なのか、またどのような準備が必要なのか、といったことについて、学内外から専門の講師を招いて講演会を開催する。今年度は特に本学四年次生で就職先の決まった学生たちによるパネルディスカッションも予定している。講演のテーマとしては左記のようなものを予定している。

- 一、激動する現代社会、経済体制下における雇用・労働環境の現状と展望について
 - 二、女子学生の就職について
 - 三、国際機関・国連、国際交流基金、国際協力事業団などで働くには
 - 四、各業界・金融、情報産業、メーカー、マスコミなどで働くには
- なお、日時・場所等の詳細については近くホームページに掲載する。

(就職部)

008

二年次生で 西日本学生相撲 チャンピオンに



六月、大阪で行われた第七十四回西日本学生相撲選手権の個人戦で野田 貢さん(商学部二年次生)が、見事優勝した。二年次生の優勝は、山本敏生さん(現・土佐ノ海 九十四年商卒)以来九年ぶりの快挙だ。

大会前の合宿で腰を痛め、「コン디션は万全にほど強い状態。しかし一九一センチの上背と長いリーチを生かした迫力ある突き押しで優勝をつかみ取った。「なにがなんでも勝つ」という気持ちで臨みましたが、まさか優勝できるなんて」。

愛工大名電高から同志社大学へ他の大学のように練習漬けというよりは、授業はきちんと出席し、空いた時間で筋トレや自主トレを行って、全体練習は夜六時から一時間半のみ。「でも内容の濃い稽古なので、練習量に対する不安はありません。むしろ自分に合っていると思います。」

目標は大相撲の魁皇関のような力強い相撲。そのため現在百三十四キロの体重を少しでも増やすべく、毎日一日六食を自らに課している。「目標は百五十キロ。油断するとすぐ十キロくらい減ってしまうんです。練習よりも飯の方がつらいですね」と苦笑い。

十一月の全日本学生選手権、十二月のアマチュア選手権とこれから大きな大会が続く。「自分の小ささを思い知らされるかもしれませんが、だんだんと経験を積んでいきたい」と謙虚だが、土佐ノ海関も取れなかった学生横綱のタイトルはぜひ取りたいと、静かに意気込んでいる。

009

ネットワーク利用上の注意

最近では、本学でもネットワーク利用における苦情が学内利用者だけでなく学外からも寄せられることが多くなってきた。他人の名前を騙って悪戯メールを送る、あるいは電子掲示板やチャットに公序良俗に反する書き込みいわれる、荒らし(行為)を行う、といった悪質な事例も後を絶たない。一般社会でもこれに相当するような行為(偽名行為、公序良俗に反する行為)は当然ながら禁止され、場合によっては制裁が科される。

本学でも、マナー違反や不正行為に対しては事実関係の確認・関係者の特定を行い、状況によってはしるべき措置をとることになる。同志社大学学術情報ネットワークシステム利用要綱「および、インターネット利用要綱(参照)」。一部のマナーを守らない者のために、ネットワーク上での制約が増えていくことは誰も望まないはずである。本学においてインターネットを利用される方々は、常にネットワーク利用上のマナーを遵守し他の利用者への配慮を心がけること、また本学の学術情報ネットワークは、教育・研究活動の支援を目的として運用されている「ということを念頭に置いた上で、インターネットをより有効に利用し、教育・研究活動の成果をあげられることを願っている。

010

京田辺キャンパスの 玄関口にモニュメント

JR同志社前駅から京田辺キャンパスへの通学路に、高さ六メートルのモニュメントがお目見えした。同志社創立百二十五周年を記念して造られたもので、上から見ると正三角形を三つ寄せた校章の形になっており、見る角度によつて形や色彩などのイメージがさまざまに変化する。これは通学路周

辺の環境整備としてブラザ的に整備されたキャンパスの入口に建てられたもので、夜間にはライトアップされ、京田辺キャンパスにふさわしい姿を写し出している。



このたび優れたデザインに贈られる第三十四回SDA賞に入選した。

011

三サークルが 加茂ストリートベンダー に出展

カマクラズ、フォトクラブ、Tシャツ研究会が、京田辺校地南東に位置する加茂町で商工会主催のストリートベンダーに出展する。この催しはいわゆるストリートでサークルや個人が作成したオリジナルのモノを展示したり販売したりするもので今年が初めての試み。第一回は九月十六日・十七日に開催されたが、今後の予定は以下の通り。
日時: 十月十四日(土)・十五日(日)
場所: 菰仁京跡
日時: 十一月十七日(土)・十八日(日)
場所: 高田驛原ストリート沿い
お問い合わせ先: 加茂町商工会
(07774)761-2970

012

法学研究会が 移動法律相談開催

九月二日から五日まで、新居浜・今治・松山で法学研究会が移動法律相談を行った。同会は、毎週土曜日に開催している定設の法律相談の経験を生かし、これまで全国各地で法律相談を行ってきた。今回の相談は離婚・相続・相続関係・交通事故・財産など多岐にわたり、四日間での相談件数は一八九件にのぼった。相談は学生が依頼者の相談を聞き検討したうえで、弁護士や教授に検討結果を確認してもらい、依頼者に回答するという形態をとり、誤答を無くす努力がなされた。



士や教授に検討結果を確認してもらい、依頼者に回答するという形態をとり、誤答を無くす努力がなされた。

013

禁煙と防火について

六月二十三日深夜に明徳館文学研究科共同研究室において火災が発生しました。幸いに警備員と居合わせた大学院生による早期発見と初期消火

により、大火には至りませんでした。原因はタバコの吸い殻をゴミ箱に入れたことにあります。ご存知のとおりタバコの不始末から多くの火災が発生し、人命も失われています。

学内には昼夜を問わず多数の学生が学んでおり、また、貴重な文化的財産も多くあります。事件が発生すると関係機関・関係者に多大な迷惑を及ぼすだけでなく、諸経費の弁償にも応じていただかなければなりません。今一度、学内において喫煙のみならず、日常的に取り扱う火元にも十分注意していただくとともに、タバコの吸い殻は、必ず灰皿に投入するよう心がけてください。

キャンパス内STOP喫煙

十月一日よりキャンパスでの喫煙の制限をもうけました。
一、館内は原則として禁煙とする。
二、館外は、灰皿が設置された場所以外は禁煙とする。歩行中の喫煙は禁止する。
喫煙は指定された場所です！
喫煙マナーを守りましょう。

014

退職教員紹介

尾崎久仁博商学部助教教授は五月三十日にお亡くなりになりました。

本学教員の最新刊

(学術情報センター調べ)

- 未来革命 浅井隆+戦略経済研究所21(三木光範著) 第二海援隊 一、七〇〇円
- 特許法講義 「第三版」 仙元隆一郎著 悠々社 三、九〇〇円
- シエイクスピアを学ぶ人のために 今西雅章 ほか編 坂本完吾 勝山貴之 山口賀史 執筆 世界思想社 二、三〇〇円
- 社会福祉入門 岡本民夫 ほか著 放送大学教育振興会 二、四〇〇円
- マクロ経済学「I」入門編・マクロ経済理論 A B Eーヘル ほか著 伊多波良雄 岸基史 ほか訳 シーエービー出版 三、二〇〇円
- あなたの会社の偏差値診断 松本敏史 ほか著 税務経理協会 一、六〇〇円
- 粉体工学用語辞典 第2版 粉体工学会 編 日高重助 下坂厚子 白川善幸 森康維 執筆 粉体工学会 七、五〇〇円
- 言語研究における機能主義 I 誌上討論会 小泉保 編 龍城正明 ほか論述 くらしお出版 三、八〇〇円
- 日本の芸術論 神林恒道 編 太田孝彦 執筆 ミネルヴァ書房 五、五〇〇円
- 日韓の歴史教科書を読み直す キリスト教学校教育同盟関西地区国際交流委員会 編 沖田行司 工藤弘志 執筆 神戸学生青年センター 二、三〇〇円
- 日本の会社法 「新訂第3版」 森田章 川口恭弘 ほか著 商事法律研究会 三、四〇〇円
- MINORVA現代経営学叢書6 人的資源管理論 島弘 編著 ミネルヴァ書房 三、五〇〇円
- 講座21世紀の労働法 第3巻 労働条件の決定と変更 日本労働法学会 編 安枝英伸 執筆 有斐閣 三、五〇〇円
- 生涯学習の展開 国生寿 ほか 編著 学文社 二、三〇〇円
- 有斐閣ブックス74 会社法「第5版」 エッセンシャル商法1 森淳二朗 ほか編 早川勝 執筆 有斐閣 二、二〇〇円
- 入門刑事法 瀬川晃 ほか編 有斐閣 二、〇〇〇円
- 新マルクス学事典 場の昭弘 ほか編 川越修 望田幸男 執筆 弘文堂 二、〇〇〇円
- 叢書現代経営学9 現代生産システム論 宗像正幸 ほか編 岡本博公 執筆 ミネルヴァ書房 三、〇〇〇円
- 入門・日本経済「新版」 篠原総一 ほか編 有斐閣 三、五〇〇円
- ポランティア いきいきと生きる 渡辺武男 監修 相川書房 二、〇〇〇円
- 芸術学の100年ー日本と世界の間ー 金田晋 編著 岡林洋執筆 勁草書房 二、四〇〇円
- ヒトラーの呪縛 佐藤卓己 編 飛鳥新社 二、二〇〇円

最近水泳を始めました

遠藤 徹

TORU ENDO



【言語文化教育研究センター専任講師】

1961年兵庫県生まれ。東京大学文学部及び農学部卒業。早稲田大学文学研究科英文学専攻博士後期課程退学。教育学修士。専門分野はイギリス・ロマン派文学、20世紀大衆文化。研究課題としては、ウィリアム・ブレイク研究、プラスチックの文化史がある。

きろかけは、いわゆる体脂肪率というやつ。

何しろ、同志社に奉職してからの二年間、ほとんど運動らしい運動もせず、呑み食いにつつを抜かしていたものですから。体脂肪率が測れるという体重計に乗ってみてびっくり、なんと、肥満ゾーンに数字が突入しているではありませんか。外見上はあまり変化がなかったのですが、そういえば確かにお腹も出てきたし、腰周りもだぶついてきたような実感がありました。当初の二年間は、市内の東山三条という遊ぶには絶好のロケーションに居を定めていたことも後押しをしたようでした。

二年目の秋から京田辺の方に引越したのを機に、心機一転運動を心がけるようになりました。お酒を呑むのはやめられなかったのですが、そのぶん木津川沿いの遊歩道を走ったり、学校まで自転車で行ってみたりと体を動かすことを心がけました。けれども、やがて秋が深まり、冬が訪れるとともに、そんな志も見事に縮みあがってしまいました。何しろ、東京に暮らしていたころには味わったことのない京都の寒さです。元来、寒がりのほくは、外に出る勇氣もなくなり、次第に運動からまた遠ざかりつつあったわけです。そんな時、近くにあったスポーツ・センターのことを

思い出しました。自転車で五分程度で行ける距離にあったその場所を、一日体験で訪れ、即座に入会を決めたわけです。

何しろ、冬でも暖房が効いた場所で運動できる上に、汗を流した後はサウナに入ってもう一汗流し、それからシャワーを浴びられるという理想的な環境でした。当初はランニングマシンやさまざまな器具を使った色々なトレーニングに夢中になっており、プールに入るのは最後の二、三十分で、それも軽く泳ぐ程度のものでした。

けれども、その内に泳ぐことが次第に楽しくなってきたのです。それは、中学、高校の体育以来自分の泳ぎにはなんの進歩もなかったということに気付いたということでもありました。我流のぶざまな泳ぎのせいか、ちよつとの距離を泳ぐにもかなりのエネルギーを消費してしまつていふことを意識し始めたわけですね。気をつけて周りを見てみると、他の人達は見事なフォームで軽々と泳いでいます。これは、水泳というのものなかなか奥の深いものらしいぞと、鈍感なほくもようやく理解したわけです。

幸いそのジムには、コーチについて学べる初級、中級、上級という三つのコースがクロー

ル、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライとそれぞれの種目について用意されており、当然のことながら初級クラスから入ってみることにしました。こうしてほくは泳ぐ楽しさに目覚めたわけです。それまでのランニングマシンやトレーニング器具での運動がある種の苦行というか、自分と闘っているという意識を前提にした厳しいものだったとしたら、泳ぐというのはむしろ水と調和することを目指す融和的なものだということがわかったからです。

つまり、泳ぐというのはとても気持ちいいことなのです。もしかしたら、それは人間が胎児期を羊水という液体の中で過ごしたからでしょうか。温水プールの温度はそういえば、人間の温度にりも温められています。それが、出生以前の懐かしさへと誘ってくれるのかもしれません。あるいは水のもっている抵抗そのものにある種のリラクゼーション効果があるのかも知れません。泳いだ後は体の凝りもとれ、気持ちもリフレッシュし、気持ちよく眠りにつくことができるのですから。水泳を始めて五カ月ほど経ちましたが、体重も減り、体脂肪も平均値に落ちつき、体調もなかなか安定しています。仕事や勉強以外に楽しみを持つことというのは、なかなかいいものですよ。

「考える」の仕組み

「頭は何のためにあるのですか?」なんて質問したとしましょう。いろんな答えが返ってくるはずですが。たとえば、「ものを覚える」「考える」「髪の毛を確保する」「帽子をかぶる」などなど……でしょうか。後の二つは別にして、「ものを覚える」という答えは多そうですね。

最近では覚えることだけに頭を使う人が多くなっているようです。でも本当は、パスカルの言葉を持ち出すまでもなく、頭は考えることに使わなければおもしろくありません。もちろん、考えるためにはある程度のことは知っていなければなりませんから、人間の頭は幼いころには、ものを覚える「こと」に使えるようになっているのでしょう。小さい子は本当によく覚えます。ところがだんだんとその「覚える能力」が落ちてきて、入れ替わるように「考える能力」ができてきます。その逆転の時期はおそらく十五歳くらいでしょうか。小学校の高学年までは、覚えることが苦痛ではない子供も多いのです。楽しいという子もいるくらいです。ところが、中学生になるとだんだんと嫌になります。高校生ならなおさらです。受験勉強では、頭にはちまきまでして頑張っているのを見るとよくわかりますね。十五

歳を過ぎると覚えるのは大変なのです。ましてや大学生にもなれば、もはやつらいを通り越しているでしょう。

では大学生では頭はどのように使わなければいけないのでしょうか。答えは当然、「考える」ことです。もはや脳はそういうふうになっている時期のはずです。考える「と脳は磨かれるのでしょう。深く考えれば考えるほど脳みそは楽しく磨かれ、それによつてよりよい考えが次々とあふれてきて、日本人に足らないものの代表のようにいわれてきている「独創的な発想」もどんどん出てくるかもしれません。いい頭がさらによりくなります。こうなると日本の将来も楽しみですね。

では逆に、いい頭を働かせないためにはどうすればいいのでしょうか。簡単なことです。せつかくのいい頭を、覚えることだけに使わせればいいのです。これを地でいったのが、昔の中国の高級官僚の選抜試験である科擧ではないかと半分本気で思っています。いい頭の持ち主を地方においておく、いい作戦を考え出して反乱を起こされては困るので、長安に集めて徹底的に経典や詩歌の解釈を丸暗記させたのではないのでしょうか。この科擧の

制度ができたのは、隋の時代ですから西暦六百年、日本でいえば聖徳太子のころです。孔子、孟子、老子、孫子などの諸子百家の時代が紀元前六世紀からですから、隋より一千年以上も前からいろいろと考えていたのです。諸葛孔明も西暦二一一年くらいですが、隋の時代にこんな壮大な策略を考え出してもいいように思えます。近代民主主義発祥のイギリスでも一般からの公務員採用試験を行ったのは十九世紀近くになってからだと聞くとなおさらその感がします。

とにかく、頭は考えてなんぼです。覚えるのはコンピュータがやります。人の話を聞いて、あるいは読んで知り、それから納得がいくまで考えるのです。間違っても人がいつていることをそのまま感心して信じてたりしてはいけません。いまはやりの環境問題にしても、ほんとうに二酸化炭素の増加が地球温暖化の原因になるのか、温暖化は悪いのか、などと順々に考えてみるのです。いろんなことを考えはじめると、知識を覚えているときよりも世界が大きく開けてくるのを実感できるでしょう。



MASAKAZU YAMASHITA

山下 正和

【工学部教授】

1949年京都市生まれ。京都大学大学院工学研究科石油化学専攻博士課程修了。1977年同志社大学に入社。専門は環境科学、有機化学。著書に『有機化学の力だめし』『エッセンシャル有機化学』など。

販売の第一線に立ち、
バイヤーとしての
資質を磨く。

私が大学を卒業したのは一九九一年ですが、パールの全盛期、それでも、私が専攻していた美学及芸術学で得た知識を生かせる職場は少なく、学芸員になれたらとも思いましたが、極めて狭き門でした。そんな中、将来はミュージアム関係の仕事ができるかもしれない...という比較的軽い気持ちで選んだのが現在の職場です。以来、今春まで十年間、コーディネートとして、またサブバイヤーとして、婦人服売り場を担当してきました。本部採用ですから、もともと職場が変わってもおかしくはないのですが、一貫して大丸京都店の二階にいました。男性バイヤーの補佐ではありましたが、バイヤーの仕事は面白く、続けていくに値する仕事だと思っていました。さすがに十年近く続けていると、新しい何かにチャレンジしたくなるものです。そんな

第9回

My Life. 仕事

が仕事を通して見た「社会」とは？
ことの意義とは？

う先輩の声に耳を傾けながら、
生生活の現実を考える機会にしたいものです。

な折も折、クラシック・アンティエというブランドの直営ショップのチーフの社内公募があり、応募したところ、採用が決まりこの四月から売り場に立っています。



サブバイヤー時代から感じていたことですが、私が入社した当時に比べ、消費者の心理は格段にシビアになっているし、しかもいいものにお金を出さないという傾向が肌で感じられます。一方、お客様の商品に対する知識レベルが高く、うかつできないというのが実感です。クラシック・アンティエはアメリカのノードストロムという百貨店のプライベートブランドのインポートショップなので、チーフ採用が決まった後、十日間シアトルの本店で研修を受けたのも有意義でした。海外の百貨店の多くがそうなのですが、完全「ミッション制」の給与体系をとっており、お客様のクレームに対しては、担当者が全責任を担います。日本ですと最初は担当者が対応しますが、納得いただければその上司、さらには店長が対応するシステムになっているのとは対

照的でした。サービス提供の姿勢も明確であり、それがスタッフの一人ひとりにまで浸透する企業風土に、百貨店業界に働く者として改めて考えさせられました。もう一つ個人的に受けた刺激が英語でした。大学を卒業して十年近く経ち、すっかり外国語から遠ざかってしまいましたが、もう一度英語の勉強を始めてみようという気になり、英会話学校に通うようにもなりました。

百貨店は、ある意味で自己啓発がとても大切な業界です。商品知識だけでなく、ファッショントレンドなどは自発的に勉強して、キヤッチアップしていかなければならないのです。学生時代によく聞いた、自由にそして集中的に勉強できるのは大学時代しかないという言葉が、社会に出ると実によくリアルに感じられるものです。大きな組織の中にあるとなかなか身動きがとりにくいものですが、将来バイヤーとしてやっていくためにも、自己啓発は欠かせないと自分自身を戒めています。

PROFILE



小山 文子さん

【1990年文学部文化学科 美学及芸術学専攻卒】
株式会社大丸 京都店 婦人服部 販売係長

「百貨店は本来女性が活躍できる職場のはずなのに、女性がなかなか役職につきにくい風土があります」と語る小山さんにとって、クラシック・アンティエはキャリアアップの格好の機会。「やりたいこともあるけど、周囲への気配りもしないといけない難しい年頃だから...」と語る小山さんの表情から、静かな意志が伝わってきた。



シリーズ

『ONE PURPOSE』では、さまざまな分野で活躍する先輩を訪ね、毎号「私と仕事」をテーマにお話を伺っていきます。

私と「My Job」

社会へ出てかれこれ？年。先輩たちあるいは「生きる」

歩んだ道も経験もそれぞれ違将来の自分にふさわしいキャリア・プランと学

つねに営業の立場を
考えながら
企画立案に努める。

入社一年目から営業統括部に配属され、以来企画一筋に歩んできました。当時は、みんなが業界の専門用語を使うものですが、まるで外国に放り込まれたような状態だったのを記憶しています。仕事の内容は、営業支援が主たる業務で、販売計画の立案や販売実績の分析にあたっていました。入社した年は、製薬業界全体が定価販売を行うための流通改善に取り組んでおり、入社半年でこのプロジェクトに参加させていただきました。入社半年といえば、右も左も分からないまま先輩の言われる通りに動くのが精一杯。それがいきなり業界の大きな変革の渦の中に巻き込まれたのですから大変でした。それでも何とかデータを集め、他社の価格戦略を見極めながら適正価格を決めていきました。このプロジェクトに参加できたお陰で、まわりから

評価をいただき、私自身も大きな達成感を味わうことができました。

本社の企画部門というトピックに向かい、数字だけを相手にする仕事と思われがちです。事実それですませることもできるのですが、本社の意向だけで営業の第一線を動かそうとしても、そこには溝が生まれるだけです。そんなことを考えているうちに営業経験のない自分が販売計画やプロジェクト計画を立てていることにシレンマを感じ出し、営業第一線への転身を考えて時期もありました。しかし、冷静に考えてみると私は裏方に向けた性格だと思いつく。そうした部署意識を持つことは逆に变だと考えるようになりました。それならつねに現場に足を運び、皆さんが動いているペクトルを敏感に感じ取ってそれを施策づくりに生かしていこうと考えるようになりました。

一昨年からは、同じ営業統括部内ながら人事の仕事をするようになり、そうした意識も強くなりました。拠点の見直しや営業効率の上がるローテーションの開発を行っているの



だけ多くの人とコミュニケーションする機会をつくり、自分の意思を伝えるよう心掛けてみてください。そういう意味では就職活動の面接と似ているかもしれない機会がもしもありませんか。自分の言いたいことを、主張したいことを整理し、相手に上手に伝える。これは結構難しいものですが、やりがいのあることです。

PROFILE

矢野さんは、四年間の学生時代を通じて予備校でアルバイトを続けてきたという。当時から、半分社会人のような生活をしていたので、入社したときも理想と現実社会のギャップに悩むことはなかったそうだ。「営業研修を受け、現場に立ったとたんドロッアアウトして新人社員が毎年何人かいます。厳しさを乗り越えた後に味わえる達成感を知らずに辞めていくのはおしいですね」と語ってくれた。

田辺製薬ホームページ
http://www.tanabe.co.jp



矢野 勝久さん

【1991年商学部卒業】

田辺製薬株式会社 営業統括部 企画部企画課

ANNOUNCEMENT

◆ 同志社創立125周年記念行事

記念シンポジウム(東京)

日時 2000年11月11日(土)14:00~17:00
会場 東京国際フォーラム(TOKYO INTERNATIONAL FORUM)ホールB
シンポジウム 共生への志(こころざし)~心のいやしと魂の鎮めの時代に向けて~
パネリスト Dr.Ronald P.Dore ロナルド ドーア氏
 (ロンドン大学名誉教授・日本研究者) Prateep Ungsongtham 素
 プラチーブ・ウンソンタム氏 (タイ上院議員・社会福祉運動家)
 大江 健三郎氏(1994年ノーベル文学賞受賞者・作家)
コーディネータ 深田 未来生氏(同志社大学神学部教授)
 当日は明德館21番教室および(学)同志社ホームページ上で同時中継予定。
 ホームページアドレス <http://www.doshisha.ed.jp/>

全同志社合唱祭

日時 2000年11月18日(土)15:30~18:30
場所 京都コンサートホール(大ホール)
 グリークラブ、リーダークラウンズ、C.C.D、こまくさ、コールフレューゲル、学生聖歌隊、メサイア研究会、女子大学女声合唱団等、大学、女子大学、高校、中学さらに卒業生を含め全同志社の合唱団が一堂に会し行われます。

記念シンポジウム(京都)

日時 2000年11月25日(土)14:00~17:00
会場 国立京都国際会館(KYOTO INTERNATIONAL CONFERENCE HALL)大会議場
シンポジウム 新世紀への出発(たびだち) 文化が創る心の時代
パネリスト Dr.Kathryn C. Thornton キャスリン・C・ソーントン氏
 (元NASA宇宙飛行士・ヴァージニア大学工学応用科学部教授・学部長) 松井
 孝典氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授) 三枝 成彰氏(作曲家)
 飯野 賢治氏(スーパーワープ代表取締役)
コーディネータ 磯村 尚徳氏(パリ日本文化会館館長・外交評論家)
 当日は(学)同志社ホームページ上で同時中継予定。
 ホームページアドレス <http://www.doshisha.ed.jp/>

同志社ホームカミングデー&ウィーク

日時 2000年11月1日(水)~3日(金)
会場 今出川キャンパス(主会場)および京田辺キャンパス
 期間を通じて卒業生がキャンパスに集い、ノスタルジーを感じ、さらに普段の学園の様子にもふれてもらい、母校とのきずなを深めていただきたいと願っております。特に3日(金)はホームカミングデーとして種々の催しを予定しています。在学生の皆さんの参加も歓迎いたします。

◆ 派遣留学生の募集(B日程)

2001 2002年度の外国協定大学への留学出願受付を次の日程で行います。希望者は両校地国際課で手続きを行ってください。
 なお、国際課では「外国留学要領」を配布中です。
 出願期間:2000年10月12日(木)~10月17日(火)
 受付場所:国際課(京田辺・今出川校地)

◆ What's on Thursdays=WOT(ワット!!)

場所 同志社大学会館(今出川校地) **入場無料**
時間 16:45~[1回目] 19:00~[2回目]
 は1回目上映16:00~になりませう



日本映画~新たな世紀への飛翔2

Part1 日本映画の新しい才能

10月5日(木) 「地雷を踏んだらサヨウナラ」
 監督:五十嵐 匠 出演:浅野 忠信
10月12日(木) 「どこまでもいこう」 監督:塩田 明彦
10月19日(木) 「アドレナリンドライブ」
 監督:矢口 史靖 出演:石田 ひかり
10月26日(木) 「落下する夕方」 監督:津津 直枝 出演:原田 知世

11月2日(木) 125ホームカミングウィーク特別企画
 「いちげんさん」 監督:森本 功 出演:鈴木 保奈美
 13:00~ 16:45~ 19:00~ (3回上映します)

Part2 充実するベテラン監督

11月9日(木) 「あ、春」 監督:相米 慎二 出演:佐藤 浩市・山崎 努
11月16日(木) 「39 刑法第三十九条」 監督:森田 芳光 出演:鈴木 京香

Part3 日本映画はますます進化する

11月30日(木) 「白痴」 監督:手塚 眞 出演:浅野 忠信
12月7日(木) 「ニンゲン合格」
 監督:黒沢 清 出演:西島 秀俊・役所 広司
12月14日(木) 「御法度」
 監督:大島 渚 出演:ビートたけし・松田 龍平・武田 真治

Part4 クリスマスコンサート

12月21日(木) 「ソウルフル・ジャズ・ナイト」
 出演:小野 みどり(org)・小柳 淳子(vo)

お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

ONE PURPOSE

<ワンパーパス>

同志社大学通信124号

2000年10月1日(4・6・10・12月年4回)発行

発行 同志社大学 広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通丸東入

TEL. 075-251-3120 FAX.075-251-3080

E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

